

新たな総合計画（ビジョン）の骨子案【概要】

1 これまでの主な取組と成果

- チャレンジビジョンに基づく様々な取組により、合計特殊出生率は全国平均を大きく上回って推移し、県内総生産及び1人当たり県民所得が年々増加するなど、一定の成果を見せており、新たな成長に向けた芽も育ちつつあります。
- 一方で、進行する少子化・高齢化による人口構造の変化や、東京一極集中に起因する若年層を中心とした社会減などは拡大しつつあります。
- また、社会的・経済的な格差の拡大や人手不足の深刻化といった社会問題も表面化しています。

2 特に考慮が必要な将来の情勢変化と対応・備え

(1) 現実化する人口減少、少子化・高齢化への対応

- 本県の総人口は、2060年に約215万人まで減少し、県全体の高齢者比率も35%を超えるなど人口減少と少子高齢化による構造変化の進行が予測されます。
- 予測される人口減少は避けられないとの認識の下、本県の持続的な発展に向けて、地域社会の活力を確保していくことが重要です。

(2) 新たな展開を迎えるグローバル社会への対応

- 人やモノ、資本、情報等が国境を越えて移動するグローバル化が大きく進展しており、日常生活においても、世界と直結するグローバル社会が浸透しつつあります。
- 欧米や中国を中心とした従前の市場にとどまらず、多くの新興国における経済活動が活発化しており、今後は、これらの国や地域の企業との競争の激化が予測されるなど、グローバル社会は、新たな展開を迎えています。

(3) AI/IoT、5Gなど急速に進むデジタル技術への対応

- 新たなデジタル技術を活用したDX（デジタルトランスフォーメーション）と呼ばれる潮流が到来しており、産業構造や働き方・暮らし方等に大きな変革とともに、社会をより便利で、豊かに変える可能性を秘めています。
- 一方、本県の産業の中核である製造業においては、研究開発から製品製造に至る様々な工程における定義が変わるような技術革新が加速度的に進行し、従来の強みが十分に生かされなくなるなど、大きな影響を及ぼす可能性があります。

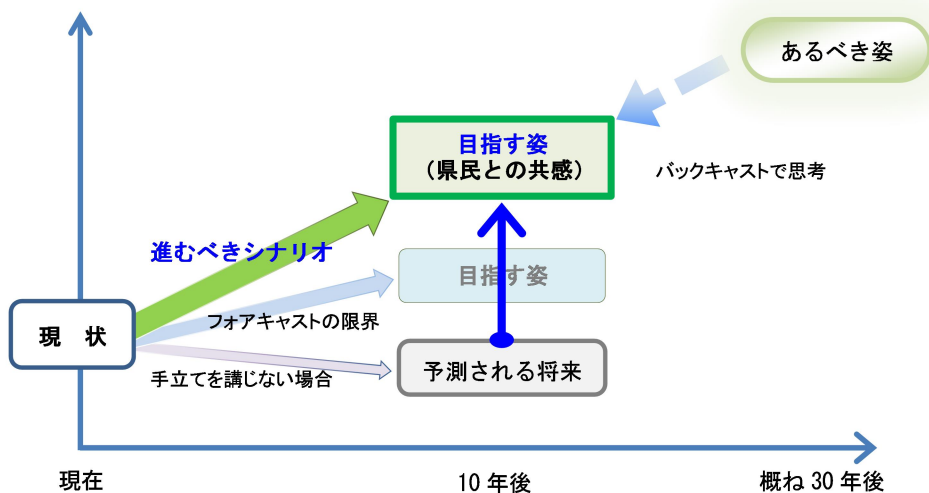
(4) 頻発化する大規模災害への備え

- 平成30年7月西日本豪雨など、日本各地で毎年のように大規模な河川の氾濫や土石流が同時多発的に生じる大災害が発生しています。
- これまでに整備した河川や砂防ダム等が、被害を防止・軽減する一定の効果は果たしたものの、土石流がダムを乗り越えるなど設計上前提としている水準を上回る箇所もありました。

3 新たな広島県づくりに向けて

(1) 策定の趣旨

これまでの取組における課題や、今後予測される課題に立ち向かうため、概ね30年後のあるべき姿を構想した上で、10年後（2030年）の目指す姿と進むべき方向をお示し、県民の皆様と共に共感いただくことで、一緒に新たな広島県づくりを推進していきます。



(2) 計画期間

令和3(2021)年度～令和12(2030)年度

※別途、総合計画の実効性を確保するため、事業戦略（アクションプラン）〔令和3(2021)年度～令和7(2025)年度〕を策定します。

（この事業戦略は、広島県まち・ひと・しごと創生総合戦略を兼ねます）

4 基本理念と目指す姿

(1) 基本理念

将来にわたって、「広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった」と心から思える広島県の実現

県政の主役は県民の皆様であり、日常生活、経済活動等の様々な局面で、あるいは、出産、子育て、就学、就職など、あらゆるライフステージにおいて、本県で暮らすことに喜びを感じて頂けることが最も重要であり、安心して、生き生きと暮らし、幸せを実現させたいと願う思いは不変のものであり、こうした願いの実現は、県民一人ひとりの希望でもあります。

(2) 目指す姿

基本理念を基に、

県民一人ひとりが、安心を土台として、誇りと自信を胸に、
新たな「夢や希望」にチャレンジしています
～仕事も暮らしも。もっと欲張りなライフスタイルの実現～

を目指します。

5 新たな広島県づくりに向けた基本的な考え方【戦略】

(1) 県民の挑戦を後押し

① 県民が抱く不安を軽減し『安心』につなげる

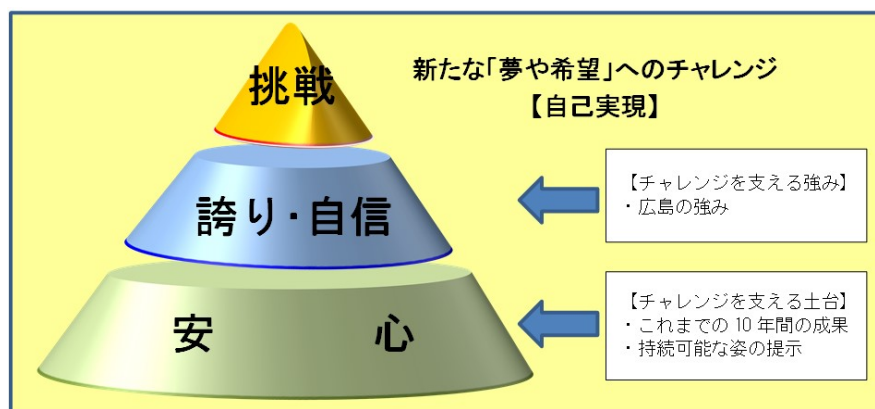
- 人口減少と少子化・高齢化の進展や地域経済の成熟化に加え、将来に対する先行きの不透明感が増す中、県民の皆様は、結婚や出産、子育て、教育、雇用、医療・介護、健康など、将来に対する様々な不安を抱きながら生活しています。
- 新たな広島県づくりを推し進めるためには、県民の皆様一人ひとりに、今後歩んでいく将来に対して、「夢や希望」を持っていただくことが、何よりも重要であり、そのためにはまず、県民の皆様が抱いている様々な不安を軽減し、安心につなげていく必要があります。
- 県民の皆様が抱く不安を、安心に変えていくためには、
 - ・ 様々な分野でイノベーションを起こすことなどにより、不安要素そのものを取り除いていくこと
 - ・ 様々なセーフティネットの構築や、多様な選択肢のある環境をつくりだすことにより、自己肯定感を醸成し、向上させていくこと
 - ・ 乳幼児期から社会人までの一貫した学びと人材育成を行うことにより、自己能力を強化し、その能力を社会で発揮していくこと
 - ・ 精神的な拠り所の確保に向けて、多様性を認め合い、支え合う地域共生社会を推進していくことなどの観点から検討を進めていく必要があります。
- こうした考え方を、新たなビジョンの施策づくりの基礎に置き、県民の皆様が安心して暮らすことができる社会づくりを進めていきます。

② 県民の『誇り・自信』につながる強みを伸ばす

- 本県は、世界に誇る瀬戸内海をはじめとする美しい自然や、美しさと荘厳さを兼ね備え、特に外国人観光客に絶大な人気を誇る世界遺産厳島神社、日本酒や広島牛などの食文化や、ものづくり産業における世界トップレベルの技術の集積を活かしグローバルな活動を展開する自動車産業など、他県にはない独自の強みを多数有しています。
- また、人類史上初の原子爆弾による破壊と廃墟からの復興を経験した地として、「核兵器廃絶への信念」と「復興への確信と未来への希望」の2つのシンボル性を有しており、核兵器廃絶に向けた道徳的権威（モラル・オーソリティ）として果たすべき使命と平和への期待が集う場所としての役割の発揮が求められています。
- 世界に訴求する広島の知名度を活かし、あらゆる分野において、世界を相手に取組を進め、成長し続けることで、「持続可能（サステナブル）な広島県の実現」につなげていきます。

③ 県民一人ひとりの希望の実現に向けた『挑戦』を後押し

- 新たな広島県づくりは、行政による取組だけでは進めることはできないことから、個人・企業・団体など全ての県民の皆様と、目指す姿を共有し、共感をいただきながら、連携・協働して取り組んでいくことが重要です。
- このため、まず、県民の皆様が抱えている様々な不安を軽減し、安心につなげていくとともに、広島が果たすべき使命や広島の宝である様々な地域資源への共感を獲得することで「広島が世界の中で確固たる存在感」を発揮し、実感できる取組を進めることにより、誇りと自信をより高めていきます。
- こうして得られた「安心」や「誇り・自信」を新たな原動力として、県民一人ひとりに、新たな「夢や希望」にチャレンジしていただき、その様々な挑戦の後押しとなる取組を進めることで、県民の皆様と一体となって、新たな広島県づくりを押し進めていきます。



(2) 特性を活かした持続可能な地域づくり

① 県全体の発展を牽引する魅力ある都市づくり

- 広島市や福山市では、先進的なものづくりや独創的なビジネスモデルを生み出す産業に関する資産など高次都市機能を保有しており、産業及び人口の流出を防ぐダム機能としての役割を発揮していくことが不可欠となります。

- このため、本県が持続的な発展を成し遂げるには、この2つの都市が県全体の発展の牽引役となるよう、都市基盤の整備や都市機能の向上を進めるなど、両市と連携して、人や企業を惹きつける魅力ある都市づくりに戦略的に取り組んでいきます。

② 中山間地域をはじめ豊かで日常に不可欠な多面的機能の持続的な発揮

- 県土の約7割を占める中山間地域は、広く県民に潤いや四季折々の季節感を与えるとともに、県土の保全や水源のかん養、安全・安心な農林水産物の供給など、日常生活に欠かすことのできない多面的な機能や役割を担っています。
- しかしながら、中山間地域の人口減少と高齢化は大きく進展し、農林水産業の担い手や医師不足、生活交通の縮小など、地域環境は一段と厳しさを増していることから、次世代にわたって安心して住み続けられるよう、デジタル技術なども活用し、生活サービスの確保やコミュニティを維持するための対策を一層強化していきます。

③ 暮らしに必要な機能が集積し、利便性の高い集約型都市構造の形成

- 本県は、充実した都市機能を有する地域と豊かな自然を有する地域が近接しており、これらをつなぐ地域は、日常の買い物や医療など、生活に欠かすことのできないサービスが集積し、居住区域と一体となって発展していますが、こうした地域でも人口減少と高齢化が進行し、生活サービスの機能の維持が困難になっています。
- このため、都市機能・居住の集約などによるコンパクトで利便性の高い市街地や集落を形成し、これらの地域を結ぶ最適な交通基盤や公共交通ネットワークの構築を進めるとともに、災害リスクを考慮した安全・安心に暮らせる集約型都市構造の形成に取り組むことにより、持続可能なまちづくりを推進していきます。

6 施策の展開【戦術】

(1) 経済成長と人口減少社会の課題解消を目指すDXの推進

AI/IoT、ロボティクス等のデジタル技術を活用し、新たなサービスや付加価値を創出できる環境を整備し、県内産業の生産性向上や競争力の強化を促すとともに、人口減少社会における医療、介護、教育などの課題解消を図り、県民の暮らしをより便利で快適な豊かなものに変えていきます。

(2) ひろしまブランドの強化と国内外からの共感の獲得

「ひろしま」のブランディングを意識した取組を進めることで、県民の皆様には広島の魅力や誇りを再認識していただき、県民の誇りや自信につなげるとともに、国内外からの共感の獲得につなげます。

(3) 生涯にわたって自己の能力と可能性を最大限に高める人材育成

あらゆる分野における力の源泉は人であり、仕事や暮らしがどう変化するか不透明な中においても、その変化に的確に対応し、新たな付加価値を創造することができる、将来の広島県を支えるあらゆる分野において必要となる人材の育成に着目した取組を進めます。

7 総合計画を推進する上での施策マネジメント

(1) 3つの視座の徹底

県民とともに「目指す姿」を実現していくためには、県職員一人ひとりが失敗を恐れず、スピード感を持って創意工夫を行っていくことが大切であり、取組を進める上では、「県民起点」「現場主義」「予算思考から成果思考への転換」の徹底を図ります。

(2) PDCAサイクルによるマネジメント

「目指す姿」を実現していくため、「取組の方向」を、実効性ある事業へと具体化するとともに、事業を実施する中で生じた問題点等を勘案しながら、効果が着実に発現するよう、軌道修正を加えるなど、適切な進行管理を行います。

さらに、成果獲得の確度を上げるため、施策を立案する際に、エビデンス（施策の有効性を検証した実証結果）を十分に意識することで、より妥当な手段を選択する「エビデンスに基づく施策形成（EBPM）」に取り組み始めるなど、マネジメント手法についても試行と改善を繰り返します。

(3) 県民及び市町との連携・協働

総合計画の推進に当たっては、県は、個人・企業・団体など全ての県民の皆様と連携・協働しながら一緒に取り組んでいきます。

また、住民に身近な行政を担う市町と方向性を共有し、協力して取り組んでいくことが重要であり、県は、市町の主体性・独自性を尊重しつつ、積極的な情報・意見交換を通じて、密接な協力関係を築き、地域の活性化を共に推進します。

《新たな総合計画（ビジョン）の概念図》

【基本理念】

将来にわたって、「広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった」と心から思える広島県の実現

【目指す姿】

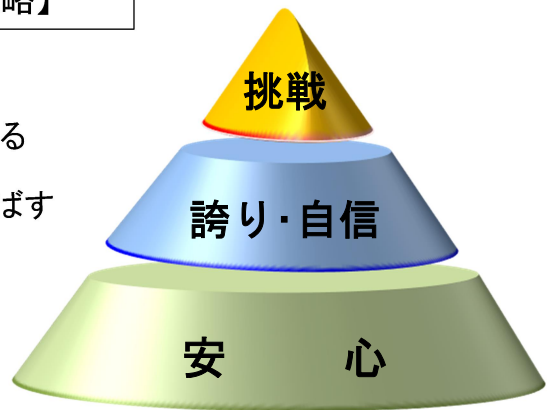
県民一人ひとりが、安心を土台として、誇りと自信を胸に、新たな「夢や希望」にチャレンジしています

～仕事も暮らしも。もっと欲張りなライフスタイルの実現～

新たな広島県づくりに向けた基本的な考え方【戦略】

（１）県民の挑戦を後押し

- 県民が抱く不安を軽減し『安心』につなげる
- 県民の『誇り・自信』につながる強みを伸ばす
- 県民一人ひとりの希望の実現に向けた『挑戦』を後押し



（２）特性を活かした持続可能な地域づくり

- 県全体の発展を牽引する魅力ある都市づくり
- 中山間地域をはじめ豊かで日常に不可欠な多面的機能の持続的な発揮
- 暮らしに必要な機能が集積し、利便性の高い集約型都市構造の形成

施策の展開【戦術】

施策の展開に向けた貫く3つの視点

経済成長と人口減少社会の課題解消を目指す『DXの推進』

『ひろしまブランドの強化』と国内外からの共感の獲得

生涯にわたって自己の能力と可能性を最大限に高める『人材育成』

〔各分野〕

子供・子育て、教育、働き方改革・多様な主体の活躍、産業イノベーション、農林水産業、観光、交流・連携基盤、健康、医療・介護、地域共生社会、防災・減災、治安・県民生活、環境、中山間地域、持続可能なまちづくり、平和、スポーツ・文化